## 今月の情勢　～経済･金融の動向～

### 原油市況

原油価格は､米国北東部の気温が平年よりも高めに推移したことや石油在庫の増加などを材料に下落基調が続き、1 月 18 日には WTI（期近物）が一時 1 バレル＝50 ドルを割り込み、05 年 3 月以来約 1 年 10 ヶ月ぶりの安値となった。OPEC（石油輸出国機構）は 2 度にわたって減産を決定（①06 年 11 月から日量 120 万バレル減産、②07 年 2 月から日量 50 万バレル追加減産）したものの、生産枠の実行が遵守されていないために相場下落を招いている。このため OPEC は加盟国に生産枠の実施を強く求めている。当面はこうした OPEC による高値維持スタンスのほか、中国・インドなど新興国の高成長による原油需要増加が持続していることもあり、原油価格の高止まりが予想される。

### 米国経済

米国経済は、雇用や住宅の持ち直しなど、年明け以降に判明した指標に底堅さを示すものが多く、軟着陸する観測が強まった可能性が高い。07 年 1 月調査によれば、米国エコノミストは 06 年 10～12 月期の成長率予想を小幅引き上げ、先行きも緩やかな伸びを見込んでいる。一方、米政策金利は 12 月 12 日に 4 回連続で 5.25%に据え置かれているが、上述のように軟着陸観測が進むなかでは当面、現状維持の政策が続くと考えられる。米政策当局（FRB）はインフレ圧力が緩和するかどうか見極める姿勢を示している。

### 国内経済

わが国では、企業部門の好調さに支えられ、緩やかな景気回復が続いており、06 年 11 月には「いざなぎ景気」(1965～70 年、4 年 9 ヶ月）を超えた。足下 11 月の鉱工業生産は、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業などの生産が増加し、2 ヶ月連続で前月比プラスとなった。在庫の積み上がりが懸念された電子部品･デバイス工業は 7 ヶ月ぶりに前月比マイナスに転じた。一方、設備投資は先行指標となる 11 月の機械受注（除く船舶・電力）が 2 ヶ月連続で前月比プラスとなったものの、過去最大の落ち込みとなった 7～9 月期（前期比▲11.1%）からの戻りが弱い。

### 金利･株価･為替

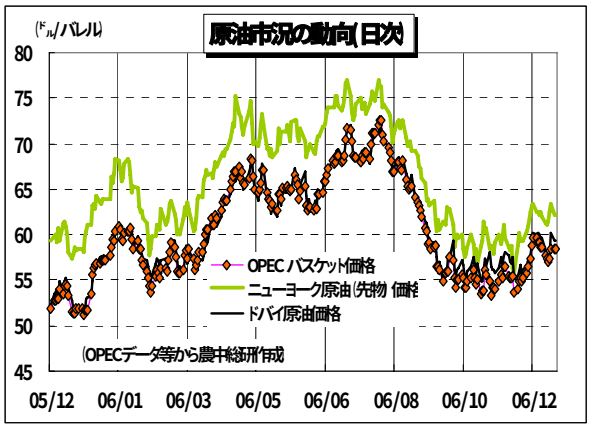
事前には様々な情報が飛び交ったが、日銀は 1 月 18 日、金融政策決定会合で追加利上げ見送りを賛成 6・反対 3 で決定。しかし、日銀執行部以外の利上げ賛成者が 3 人いることもあり、2 月利上げ観測は根強い。日本の長期金利の目安である新発 10 年国債利回りは 1.7%割れで推移。一方、日経平均株価は年明け後 1 万 7,000 円割れとなったが、その後は持ち直し、1 月 18 日には一時年初来高値となる 1 万 7,378 円に回復した。外国為替市場では、米景気への楽観的な見方が広がるなか、日銀が追加利上げを見送ったことから 1 月 18 日には 03 年 3 月以来となる一時 1 ドル＝121 円 60 銭の安値を記録。その後も円安方向で推移している。また、対ユーロでも欧州中央銀行が追加利上げの可能性を示唆していることから 1 ユーロ＝157 円台と円安が進行。

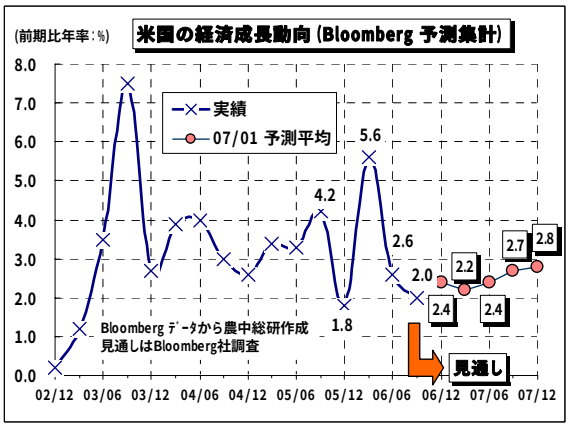
### 政府･日銀の景況判断

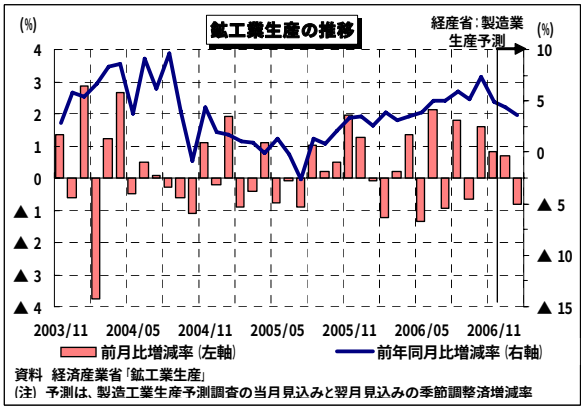
政府は 12 月の「月例経済報告」で景気判断を「消費に弱さがみられるものの、回復している」と据え置き。先行きについても「景気回復が続く」との見通しを維持した。一方、日銀は 1 月の景況判断を「緩やかに拡大」と判断を据え置いた。

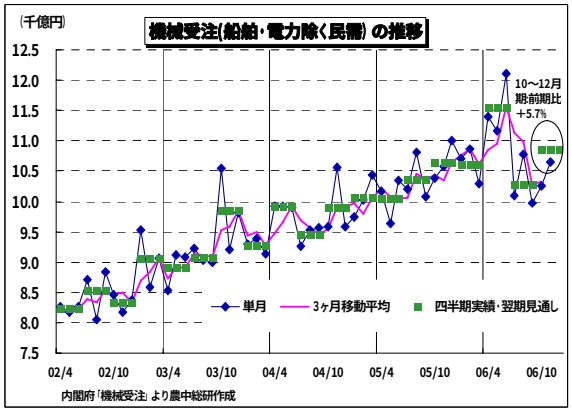

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます

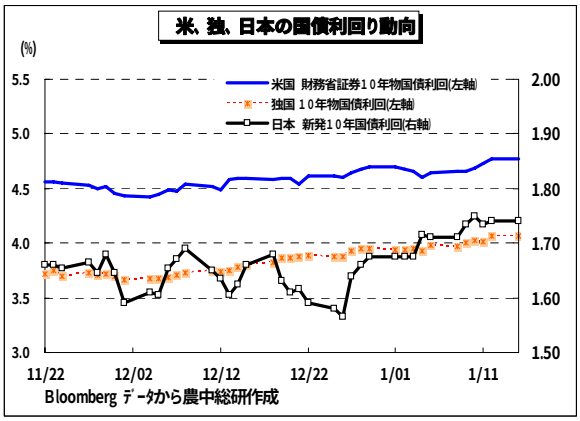
## 内外の経済金融データ

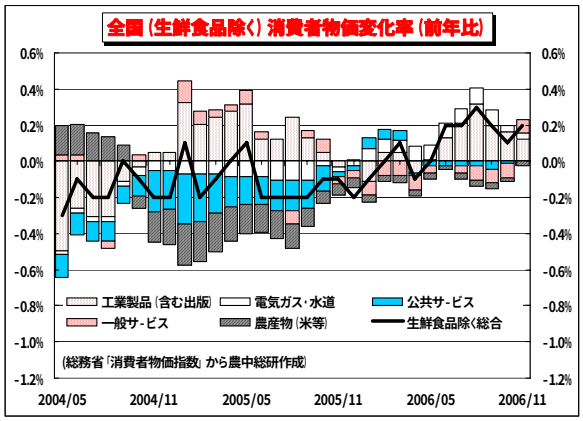



（詳しくは、ホームページ-トピックス-〔今月の経済・金融情勢〕http://www.nochuri.co.jp へ）



ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます